北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	経済理論A	科目コード	1159	単位数	3
担当者名	深澤　史樹	開講セメスター	第5セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	講義	到達目標	B,F	実務経験	無
ナンバリング	DEc503	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

グローバル化の中で地域経済がどのように変貌しつつあるか、さらに地域構造、都市化・工業化、地域財政を展開させるための分析視角を学修する。この授業では、さまざまな都市や農村の地域配置、産業配置を考えつつ、大きく変貌する地域経済の実態を示しながら、その新局面を把握できる能力を養いたい。今日、地域変容のプロセスを克明に解明することは、きわめて大きな意味があろう。今後とも、豊かで住みやすい地域として次世代へ継承していくことがわれわれに課されていることはいうまでもない。地域社会が変容してきたメカニズムと今後、地域再生しうるその条件をこの講義で一緒に考えていきたい。

到達目標

・本科目の重要性と位置づけを十分に理解し、科目の基底にある経済学をもとに地域経済論の理論を理解する。この講義を通じて、地域力の向上に貢献できる素養と知識とを習得する。
・地域経済論を通じて一般経済の動向や地域づくりの手法を考え洞察する力を身につけ、それを学修の到達目標とする。
・グローバリゼーションのなかで地域と産業経済の変動要因と変容過程、さらには地域再生の方法を学修し習得することにある。

授業内容

1週目 ガイダンスおよび地域システム変動のメカニズム：経済発展を空間という「障壁」を乗り越えようとしてきた歴史と捉えて考えてみる。さらに経済発展に伴う「正の立地」と「負の立地」について考える。
2週目 産業立地：どの立地が企業にとって最大の利益をもたらすのかを明らかする。また産業集積の形成促進によって、イノベーションを促進する政策について考える。
3週目 都市システム：「都市の立地・階層性の分析」と「都市間の相互依存関係の分析」という２つの分析方法により都市システムの分析を考える。
4週目 人口移動と地域：首都圏と地方中枢都市における人口集中、地方圏における人口減少率の上昇と人口回帰について考える。過疎化や人口減少＝雇用者数減少を通じて、経済の停滞をもたらし、地方圏でのコニュニティーの維持が困難になる問題等を考える。
5週目 情報技術と地域システム：ICTの発達は、電子商取引を拡大し、マーケティングの方法を変革している。その普及は、ビジネスのやり方を変革し、市場を世界化している。さらに地域固有の資源とICTをいかに結びつけるかが地域経済再生のカギになっていることを考える。
6週目 地域経済政策の理論：地域間格差をいかにして測定し、どの格差を政策の対象とすべきかを考える。
7週目 国土計画：国土計画の歴史的経緯と目的について理解する。バブル経済の崩壊以降は、地域の多様性の確保、持続可能な国土の形成、災害に強い国土づくりをめざすようになったことを理解する。
8週目 人口減少時代の地域問題：地方都市や農山漁村における若年労働者のための雇用と生活の場の必要性を理解する。都心においてはリノベーションが地方都市再生のカギとなることを理解する。
9週目 産業集積の衰退と再生：産業立地政策とはいかなるものかを理解し、イノベーションによって産業集積を高度化しようとする政策について具体的に理解する。
10週目 地場産業の活性化：地場産業とは地元資本の中小企業群を指すが、地域内での取引関係や地域経済の持続的発展にとっての役割や課題について考える。
11週目 商業の再生戦略：小売店舗の面積は、徐々に大型化し、郊外への立地も増えてきました。それに対して、中心市街地の商店街は、売上不振となり空き店舗が増加した。それは新しい地域問題を引き起こしていることを考える。
12週目 新産業の創出：国や地域経済の発展のために、これから振興していきたい産業はいかなる産業なのかを考える。
13週目 地方分権による地域再生：国の権限を地方へ移譲するためには、市町村と都道府県の事務能力を強化する必要があり、その上で道州制の導入も検討されている。地域経済の再生にとって地方分権が果たす役割を考える。
14週目 地域のグローバル化と地域経済論のまとめ：人口減少、超高齢社会に伴い、国内の農林水産物・食料品需要は減少していますが、輸出は増加しています。このことを踏まえて、地方のグローバル化を促進するためには何が必要なのかを考えます。
15週目 これまでのまとめと期末試験
16週目 課題や期末試験のフィードバックを実施します。ただし、やむを得ず15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講授業を行います。

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・復習は、講義の最後にリアクションペーパーを提出する。さらに、当日の講義を収録したオンデマンド動画教材をmanabaで配信いたします。（所要時間：30分）
・予習は、前の週にあらかじめ提示した課題について調べたうえで講義に臨んでいただきます。（所要時間：90分）

成績評価の方法・基準

・成績評価は、課題40点（1課題当たり2～3点の加点）、期末試験60点の合計100点満点とします。

履修上の留意点

・出欠確認は、responを使用して行います。
・成績評価は、全15週のうち、10週以上授業に出席した学生を対象とします。

課題に対するフィードバックの方法

・前の週に課した課題については、次の週の講義の中で解説する。
・講義は毎回録画し、オンデマンドで履修学生が復習などに利活用できるように自由に視聴可能とします。

テキスト

特になし

参考書

・地松原宏編著『域経済論入門（改訂版）』（古今書院）2022年 ￥3,080
・岡田知弘ほか著『国際化時代の地域経済学（第4版）』（有斐閣アルマ）2016年￥2,640

更新日付

2026/02/05 03:37